

気象台のお仕事

天気相談所四季折々

大阪管区気象台 気象防災部 予報課 天気相談所 有本 敏雄

1 はじめに

「はい、こちら気象台お天気相談所です!」と電話で対応するお天気相談所(正式には、大阪管区気象台気象防災部予報課天気相談所)は、大阪の場合2人勤務で2台の電話があり、平均して1日50件から100件の電話相談があります。台風や異常気象時には倍以上の200~300件前後の数に膨れ上がり、一日中話しっぱなしの状況になります。開所時間は、平日8時45分から17時10分となっています。

相談内容を多い順に挙げると、1位は今日から明日の天気の変化(例えば、雨の降る時間は?雷の鳴る時間は?風の吹く時間は?布団干しはどうか?)、2位は週間予報や1か月・3か月予報、3位以降には生物季節観測や季節現象を含めた観測データ、台風、黄砂などが続きます。また、身の周りに起きた不思議な気象現象、満潮・干潮、日の出・日の入りの時刻や雲の写真を送ってこられてこれは何雲?という問い合わせもあります。最近ではPM2.5に関する質問もありますが、PM2.5については気象庁で観測や予測をしておらず、環境省が情報を提供しているため、問い合わせ先の電話番号をお教えするようにしています。時には「雨が降ると言ったのに降らない」、その逆に「雨が降らないと言ったのに降った」という天気予報の外れに対してお叱りを受けることもありますが、一方では大阪の人情厚き地域性でしょうか、「ありがとう」と言って電話を切って下さる方が多い点、ありがたく感じます。

上記のように問い合わせの内容は多岐にわたっていますが、近年の集中豪雨や竜巻、雷による災害、猛暑などの顕著な気象状況、東アジア砂漠域等から飛来する黄砂、そして原発事故による放射能漏に関すること(気象庁の直接業務ではありませんが)など、災害に対する不安感、危機感を抱いている方々からのものが増えているように感じます。

本編では、一年を通して問い合わせの多い事項の中でも、特に季節の移り変わりに関連する事項を拾い出して、記述しました。皆様の日ごろの生活の中で体験されていることと照らし合わせてご覧いただければ幸いです。

2 季節毎の特徴的な問い合わせ事項

(1) 春(3月~5月)

・春一番

気象庁では、立春(2月4日頃)から春分(3月20日頃)までの間、日本海に低気

圧があり、南よりの風が強まって気温が上昇した初めての日に、気象状況を総合的に判断して「春一番」として地域毎に発表しています(大阪は近畿地方として発表)。春一番が吹くと暖かい南風により気温が上昇し、融雪による洪水や強風による災害、雪が多い地方では雪崩が起こりやすくなります。一方、その翌日は西高東低の冬型の気圧配置となり、強い北風が吹いて寒さが戻り、突風を伴うことも珍しくありませんので、釣りや海のレジャーなどには注意が必要です。2013年は3月18日に春一番が吹きましたが、年によってはこの期間に強風が吹かず、春一番が観測されない年もあります。

もともとの「春一番」は、石川県能登地方や三重県志摩地方以西で使われていた言葉と言われていますが、具体的にいつ頃どこで使われ始めたのか明らかではありません。安政6年(1859年)2月13日、長崎県壱岐郡郷ノ浦町(現壱岐市)で以前から「春一」と呼ばれていた強風によって漁船が転覆し、53名の死者をだして以降、郷ノ浦ではこの強い南風を「春一」または「春一番」と呼ぶようになったことが知られています。

・桜(ソメイヨシノ)の開花・満開

気象庁が行っている観測は種々多岐に渡っており、生物季節観測もそのうちの 1つです。生物季節観測の目的は、生物に及ぼす気象の影響を知るとともに、季節の遅れ進みや気候の違いなど総合的な気象状況の推移を知ることにあります。

気象庁では開花と満開の観測を行っており、大阪では大阪城公園西の丸庭園の中にある1本のソメイヨシノの木を「標本木」(図1)と定めて観測を継続しています。開花は5~6輪の花が咲いた日、満開は咲き揃ったときの約80%以上が咲いた状態となった日です。

大阪での2013年の開花は3月21日 (平年3月28日)、満開は3月29日(平年4月5日)でした。桜の開花日は年々早まる傾向にあり、長期的な気温の上昇傾向が影響しているものと考えられます。

・メイストーム(Maystorm)

4月後半から5月頃にかけて急速に発達する低気圧によって起きる嵐をいいます。この頃になると日本付近には低気圧



図1:桜の標本木 (大阪城公園西の丸庭園)

と高気圧が交互にやってきて、周期的に天気が変わるようになります。時には日本海や北日本付近で低気圧が急速に発達して、広い範囲で荒天となることがあります(図2に代表例を示します)。低気圧に伴う寒冷前線が通過する前後には強い雨とともに南よりの風から気にはいるため、登山および船舶などの交通機関、農作物の管理、海釣りやウィンドサーフィンなど十分な警戒が必要です。 (続く)

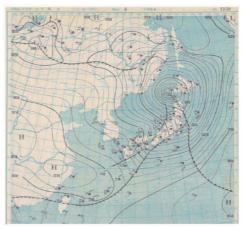


図2:1954年5月8日12時の天気図「メイストーム」の語源となった低気圧

著者紹介: 有本 敏雄(ありもと としお)

鳥取県出身。防災士。2011年4月から再任用で大阪管区気象台予報課天気相談所技術主任現職。鳥取地方気象台を振り出しに、西郷測候所、大阪管区気象台、彦根、広島、松山、京都地方気象台等を歴任、2011年3月気象庁定年退職。 趣味は写真、カラオケ、釣りなど。

編集部より

近年は集中豪雨の増加や台風の巨大化等、気象に関する関心がより高まっています。これから数回に渡って、大阪管区気象台の各課の方々に、各季節の天気の特徴や、気象台で行われている業務について、紹介していただきます。

広 告